

# 中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年1月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

## 目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P2)
  - 1 干し大根の視察対応
  - 2 1月期子牛せり市が開催
  - 3 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催
  - 4 第68回宮崎日日新聞農業技術賞 一里山有機研究会が受賞
  - 5 中部地区果樹技術員会定例会が開催
  
- II 主な普及指導活動等の取組み
  - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P3~7)
    - 1 県SAPグランプリでのプロジェクト発表支援
    - 2 宮崎市SAP会議冬季大会が開催
    - 3 宮崎市SAP会議佐土原支部 第三回勉強会の開催支援
    - 4 青年等就農計画の作成支援
    - 5 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催
    - 6 きんかん収穫体験ワークショップ(体験型イベント)開催へ向け受入調整を実施
    - 7 ネギの畑かん展示ほの収量調査を実施
    - 8 水田ゴボウ実証ほ場の検討を実施
    - 9 かんしょの種イモ蒸熱処理効果の確認
    - 10 ほうれんそうの定点調査
    - 11 大根の畑かん展示ほの収量調査を実施
    - 12 畜産研修会を開催
    - 13 JA宮崎中央菊部会国富支店1月現地検討会が開催
    - 14 JA宮崎中央洋ラン部会現地検討会が開催
    - 15 県域キク全体研修会が中部地域で開催
  
  - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P8)
    - 1 JAみやざき宮崎中央地区本部せんぎり大根担当者会を開催
    - 2 国富町飼料用イネ採種組合の生産安定に向けた協議を実施

# I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

## 1 干し大根の視察対応

17日、宮崎大宮高校の生徒が田野町の「干し大根」の視察に訪れました。普及センターと宮崎市役所から干し大根についての概要説明と質疑応答を行いました。生徒たちは、やぐらの周囲を熱心に観察し、大根が乾きやすい気象条件や独特なやぐらの形状などについて多くの質問をし、伝統的な大根やぐらについての理解を深めていました。



【高校生への説明】

## 2 1月期子牛せり市が開催

9日と10日の2日間、宮崎中央家畜市場で開催され、合計642頭（雌：305頭、去勢：337頭）の出場がありました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「2026年初乳から始まる強い牛づくり」と題して講習を行いました。

なお、今回子牛平均価格は、雌725千円（前回比40千円安）、去勢822千円（前回比46千円安）、総平均776千円（前回比49千円安）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

## 3 宮崎中央家畜市場子牛品評会が開催

14日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による2月期子牛せり市に向けた1月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、高岡支店の小谷清吾氏の「きらひめ」号（桃白鵬産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長から発育良好、体積および尻の充実、幅や深さ、移行の良さ、骨じまりが評価されていました。



【優等1席「きらひめ」号】

## 4 第68回宮崎日日新聞農業技術賞 一里山有機研究会が受賞

16日、贈呈式が宮崎市の宮日会館で開催されました。

当地域からは、会長の小浦武志氏が会を代表して受賞挨拶を行いました。

挨拶では、22年前に茶農家を継いで以降、消費減少で県内の茶農家が減る厳しい状況の中、「古里の茶園と生産者を守りたい」との思いから海外市場を見据え、有機茶への転換を進め、その成果が出て、研究会の開始から10年の節目で受賞できたことの喜びを述べられました。

今後とも関係機関と連携し、産地づくりに取り組んでまいります。



【授賞された生産者】

## 5 中部地区果樹技術員会定例会が開催

16日、宮崎市において、関係機関15名が参加し、定例会を開催しました。出荷中の各品目の販売状況、各品目の生育状況について各担当者から報告があった後、次年度の展示ほ内容、試験要望について協議しました。

第2部の技術検討では、R8年産の栽培暦について検討しました。R8年産の栽培暦は3月末までに完成予定です。

## II 主な普及指導活動等の取組み

### 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

#### 【総1・中部地域の農業を未来へつなぐ農業者の確保育成】

#### 1 県SAPグランプリでのプロジェクト発表支援

8日、県SAPグランプリでプロジェクト発表を予定している綾町SAP会議1名と宮崎市SAP会議2名に対して、発表資料の作成支援と発表練習を行いました。

20日、宮崎県SAPグランプリが宮崎県総合農業試験場研修棟で開催され、綾町SAP会議が最優秀賞、宮崎市SAP会議が優秀賞を受賞し、今年の7月に鹿児島で開催される九州大会の出場権を獲得しました。全国大会にも進出できるように、引き続き支援を行います。



【綾町SAPの発表】

#### 2 宮崎市SAP会議冬季大会が開催

16日、宮崎市SAP会議冬季大会が宮崎市内で開催され、会員14名が出席しました。県SAPグランプリで発表予定の内容を会員と共有し、発表後には質疑応答が行われ、発表をより良くしようと会員から活発に意見が出されました。今回寄せられた会員の意見を参考にした発表内容の見直し、県SAPグランプリでの受賞に繋がりました。



【宮崎市SAP会議冬季大会】

#### 3 宮崎市SAP会議佐土原支部 第三回勉強会の開催支援

21日、佐土原総合支所の研修室で開催され、会員14名が出席しました。当センターの園芸経営担当が講師として、会員から要望のあった「農薬の分類とローテーション散布」、「今後の管理」に関する講義を行いました。講義後の質問では、講義に関するだけでなく、日頃抱えていた疑問など、幅広い内容について次々と質問が出ていました。今後もSAP会員の課題解決に繋がる支援を行います。



【佐土原SAP勉強会】

#### 4 青年等就農計画の作成支援

1月は4名の就農相談、5名の就農計画作成支援を実施しました。それぞれ就農予定者との相談をとおして、中長期的な視点で計画を考えるように促しました。

#### 5 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会の開催

26日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスの事務所において、企画運営委員会定例会が開催され、関係者4名が出席しました。定例会では、農業実習や座学の進捗状況の確認、2月以降の取組内容や国庫事業を活用した施設整備、R8年度の地域プランの取組内容について協議が行われました。

普及センターでは、町役場とともにスクール卒業生等の就農計画作成支援や補助事業活用のサポートを行っており、今後も関係機関と連携して、支援を続けていきます。

## 6 きんかん収穫体験ワークショップ(体験型イベント)開催へ向け受入調整を実施

27日、高岡営農センターにおいて、農家と関係者(営農振興協議会果樹部会員)の計5名が出席し、大学生の受入調整を行いました。

このワークショップは、収穫体験をした学生が果樹経営に興味を持ち将来的に就農し、生産者と学生のマッチングが成立すること(承継マッチング)を期待し行っています。

完熟きんかん(受入農家3名予定)で収穫体験ワークショップを2~3月に計画しており、9名の学生が参加予定です。

今後も関係機関や農家と連携し、支援を続けていきます。

## 【総4・マーケットインに基づく新たな土地利用型営農の展開】

### 7 ネギの畑かん展示ほの収量調査を実施

14日、田野町で実施していた深ネギの畑かん実証展示ほの収量調査を実施しました。

調査の結果、かん水した方が、調整後の重量が増加し、茎径が太くなる傾向が見られました。令和7年は12月以降に1mm以上の降水があった日が5日しかなく、干ばつだったため、生産者もこれらの効果を実感しており、「かん水した方が収量が多かった」とお話しされていました。

今後、これらの結果を研修会などを通じて、広く周知します。



【ネギ収量調査ほ場】

### 8 水田ゴボウ実証ほ場の検討を実施

30日、跡江下小松地区作業倉庫で開催されました。事前に実施した収量調査結果をもとに検討したところ、収穫は早期水稻の移植が終わった後の4月から開始することが決定しました。今後も定期的に巡回を行い生育を確認するとともに、収穫作業の指導等を行っていきます。



【打ち合わせ風景】

### 9 かんしょの種イモ蒸熱処理効果の確認

21日、田野町において、収穫後に蒸熱処理したかんしょ種イモの歩留まりを農研機構とともに調査しました。蒸熱処理を行ったロットでは、薬剤処理に比べ基腐病による腐敗は大幅に抑えられていましたが、炭腐病の発生が多く見られる結果となりました。

今後も、関係機関と連携しかんしょの防除技術確立のために活動していきます。



【種イモの歩留り調査】

## 10 ほうれんそうの定点調査

22日、加工用ほうれんそう生産を検討するため、管内2カ所でほうれんそうの定点調査を行いました。概ね生育は良好ですが、一部のほ場では寒波の影響と思われる下葉の黄化が確認されました。

引き続き調査を行い、ほうれんそうの安定生産に向け活動していきます。



## 11 大根の畑かん展示ほの収量調査を実施

30日、清武町で実施しました。  
調査の結果、かん水した方が、重量が増加し、太さが太くなる傾向が見られました。  
今後はこれらの結果を研修会を活用しながら広く周知していきます。



【大根の比較】

## 【専3・肉用牛繁殖経営の生産技術向上】

### 12 畜産研修会を開催

29日、NOSAI宮崎中部センターで普及センターとNOSAIが共同で畜産研修会を開催し、普及センターからは「実はかなり重要！敷料と堆肥」と題して、敷料の低コスト化の取組事例の紹介や、堆肥化のポイントやメリットについて、NOSAIからは適正な敷料の使い方について講演を行い、生産者や関係者約30名が参加しました。  
今後も生産者の経営改善に向けて支援をしてまいります。



【研修会に参加する生産者】

## 【専6・生産技術向上による花き産地の維持】

### 13 JA宮崎中央菊部会国富支店1月現地検討会が開催

8日、国富町において、生産者12名、関係機関4名が参加し開催されました。

会長挨拶後に、JAからの直近の情勢報告、3月彼岸出荷の予約相対分の出荷について説明があった後、普及センターからICMチェックリストの実践の呼びかけと土づくりについて説明しました。

生育は、3月出荷作型を中心に状況を確認したところ、概ね生育良好でした。生産者や関係機関間で意見が交わされ有意義な会となりました。今後ともICMの取組等の支援を継続していきます。



【現地検討会】

### 14 JA宮崎中央洋ラン部会現地検討会が開催

22日、宮崎市において、生産者17名、関係機関3名が参加し開催されました。

会長挨拶後に、JAからの直近のコショウランの出荷の情勢報告等について説明があった後、今後の部会活動について検討がされました。普及センターからは、法人調査のお礼と調査の中で一部意見のあった融資や施設の改修の関連事業の情報等について宮崎県HPひなたMAFINに記載がある旨の説明とHP紹介チラシの配布を行いました。

その後、コショウランの生育状況を皆で確認し、活発な意見交換がなされました。

今後も引き続き生産向上のための炭酸ガス技術等の効果確認試験を行ってまいります。



【現地検討】

## 15 県域キク全体研修会が中部地域で開催

15日、国富町において、県域の生産者14名、関係機関14名が参加し開催されました。

現地検討では国富町の1月出荷作型の状況を確認しました。その後の室内検討では、専技によるキクの病害虫対策の講習や試験場から省力化技術の試験について報告が行われました。中部普及センターからは、高温対策の展示ほ等の中部地域のキクにおける取組を報告しました。

生産者や関係機関間で意見が交わされ有意義な会となりました。



【室内検討】

## 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

### 1 JAみやざき宮崎中央地区本部せんぎり大根担当者会を開催

27日、普及センターを会場に行いました。  
各支店から持ち込まれた大根の生育状況や次作に行う品種比較試験計画などについて協議を行いました。  
普及センターからは、今年度の気象の影響と思われる生育不良や生理障害発生状況について説明しました。  
今後も引き続き、せんぎり大根の安定生産に向け活動を続けていきます。



【大根の生育確認】

### 2 国富町飼料用イネ採種組合の生産安定に向けた協議を実施

29日、普及センターで、標記塚原営農組合、深年採種組合役員ら6人と、今後の採種生産に関する協議を行いました。

JAより近年の生産実績の報告を行い、普及センターより作柄低下の要因とその対応について説明を行いました。

生産農家の高齢化に伴いこうした収量安定や種子事故防止の徹底に向けた体制構築の重要性を共有した結果、役員からも「農家毎の労力や技術課題の把握が必要」との意見がありました。

今後も関係機関と連携して、安定生産に向けた活動を行います。

宮崎県農林水産業ナビ  
～ひなたMAFIN～  
ひなたマフィン 検索  
情報満載！ぜひアクセスを！⇒